

豊田市障がい者 総合支援センター



あそび

豊田市障がい者総合支援センター 活動報告「結 vol.13」を作成いたしました。
総合支援センター各施設の取組をそれぞれ一つずつ紹介しています。多くの方にご覧いただき、少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。

私たちは誰かとつながって生きています。

ひとりで悲しんでいるとき

誰かに話を聞いてもらえたら、少し楽になるかもしれない

うれしいことがあったとき

誰かに「よかったね」といってもらえたら、もっとうれしくなるかもしれない

ひとりではできないことも

誰かと力を合わせれば、できるかもしれない

利用者の方と地域の方々が結ばれることで、お互いがハッピーになれたらいいな
と考えながら、私たちは毎日の支援を行っています。

私たちの支援を地域の方々に少しでも知ってもらいたい。

その思いを「結（ゆい）」という言葉にのせて発行いたします。

(表紙の題字は、第二ひまわり 内山 盛夫さん)

豊田市障がい者 総合支援センター

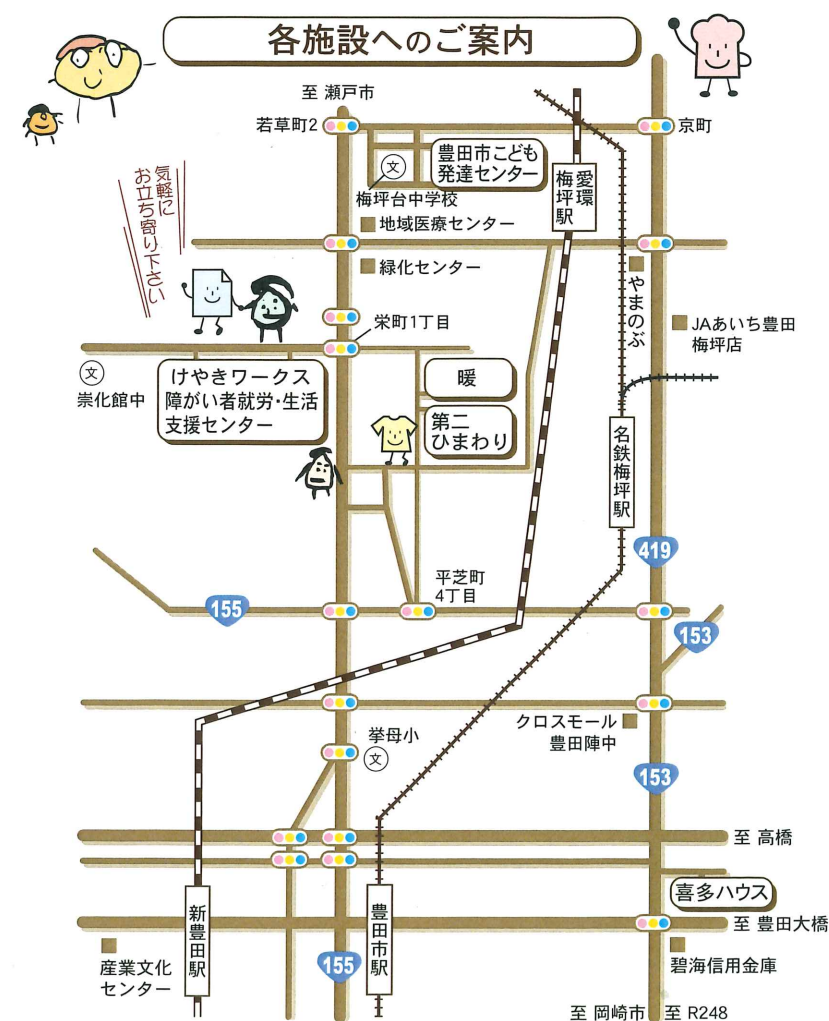


豊田市障がい者総合支援センターは、障がいのある方の自立及び社会参加を支援し、豊かな地域生活の実現を図るため、豊田市が設置した施設です。「障がい者就労・生活支援センター」「けやきワークス」「第二ひまわり」「暖」「たよりん」の5部門で構成しています。

豊田市から指定管理を受けた豊田市福祉事業団が、障がい者総合支援法に規定する障がい福祉サービス事業と、国・県及び豊田市から委託された就労生活支援事業などを行っています。

目次

けやきワークス	1
アイロンプリントの仕事	
～様々な人やコミュニティの活動を応援できる仕事～	
暖	3
地域参加	
～交流館ロビーコンサート～	
第二ひまわり	5
作業活動について	
～第二ひまわりの作業の紹介をします～	
障がい者就労・生活支援センター	7
グループホーム喜多ハウス	
～地域連携推進会議報告～	
作品ページ	8



アイロンプリントの仕事

～様々な人やコミュニティの活動を応援できる仕事～

けやきワークスのプリント部門は就労継続支援 B 型の事業です。

プリント部門の仕事は地域の学校や会社、また一般のお客様からの注文を受けて名刺やポスター、チラシ、封筒、会報、冊子などの紙の印刷と T シャツ等ウェアやタオル、キャップ、トートバックなどの布製品にプリントするアイロンプリントの 2 種類の印刷をしています。

依頼を受けたアイロンプリントの仕事は、利用者の方一人ひとりの作業が繋がって 1 つのものが出来上がります。出来上がったものをお客様が受け取って喜ぶ姿を見ることで、自分たちの仕事が社会とつながっていると実感できます。パソコンが得意な方、細かい手作業が得意な方それぞれが得意なことを活かせるやりがいのある仕事です。

今回はアイロンプリントを担当する利用者の方の主な作業内容を紹介します。

デザイン作成

お客様からいただいたデザインは、手書きのものやイメージをスキャンし、パソコンができる利用者の方が線を 1 本 1 本書き直すことによって版を起こします。

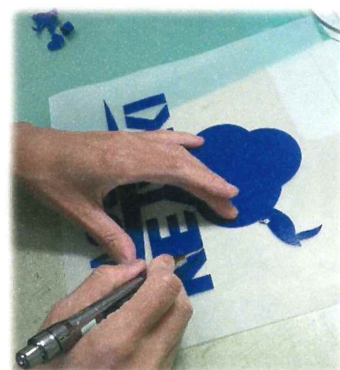
特に曲線や複雑なデザインは慎重さや正確性が必要になります。



シートはがし

特殊なシートを専用の機械でカットし、不要なところを専用の器具を使ってはがします。

とても細かい作業で、手先の器用な利用者の方がゆっくり丁寧に作業しています。



よっていきん祭 体験コーナー

毎年開催している「よっていきん祭」の時にトートバッグにプリントする体験を開催しています。

シートはがしは初めてという方が多く、皆さん楽しんで作業されています。

最後は専用のプレス機で転写します。出来上がったトートバッグを見て、皆さん大変喜んでくださっています。



デザインの配置

T シャツなどの商品にアイロンするシートを乗せる位置は、サイズや形によって違うので、1 枚 1 枚位置合わせをしながら置いています。

デザインによって中心や高さがずれて見えるので調整が難しく、毎回皆で確認しています。



梱包作業

専用のプレス機で転写して出来上がった T シャツは、同じ大きさになるように自助具を使ってたたんで袋に入れます。

お客様にお渡しする前の最後の作業なので、しわにならないように丁寧にたたみます。



数々のアイロンプリント製品



デジタル化が進み、家のパソコンやスマートフォンなどから簡単に注文できますが、けやきワークスのアイロンプリントはお客様一人ひとりと顔を合わせることで、細かな要望を聞いて調整しています。

1 枚から製作できるので利用しやすいと大変喜んでいただいています。クラブチームの T シャツやトートバッグ、学校の部活動のトレーナー、クラス T シャツ、自治区や会社のイベントブルゾンやキャップ、お店の制服や作業着など多種取り扱っています。

これからも豊富な品ぞろえとこれまでの経験を活かしたアイロンプリント製品を提供することによって、地域や社会を応援していきます。



地域参加 ～ 交流館ロビーコンサート ～

暖は、重度の知的障がいと重度の身体障がいのある方が利用する生活介護事業所（通所施設）です。暖の理念に、「どんな障がいがあっても 社会参加を目指し 社会の一員として生活する」とあります。今回は地域参加の一環で「交流館ロビーコンサート」に出かけた際の、素敵なお縁の広がりをご紹介します。

ロビーコンサートへ行ってきた

日中出かけられるところはないかと探していると、崇化館交流館でロビーコンサートが行われる情報を入手しました。音楽好きな利用者さんが「ぜひ行ってみたい」となり、交流館へ出かけました。ロビーには大勢のお客さんが集まっており、大盛況でした。音楽好きな利用者さんも素敵な生演奏を聴いて、笑顔になり楽しんでいました。



再び巡ったご縁

素敵な演奏の後、衣装や楽器を体験する時間がありました。ぜひ参加したいと前に出ていくと、演奏していた『フォルクローレサウンド豊田』のメンバーの方から「もしかして…」と声をかけていただきました。なんと声をかけてくださったのは、利用者さんが学生時代にお世話になった介護員さんたちでした。利用者さんはびっくりしていましたが、「久しぶり！」と笑顔で挨拶していました。



暖でコンサート

後日、崇化館交流館を通じて『フォルクローレサウンド豊田』さんと連絡をとることができました。「ぜひ、暖でもコンサートをお願いしたいです」とお伝えすると快諾していただきました。暖でのコンサート也大盛り上がり。ロビーコンサートに参加した利用者さんはもちろん、今回初めて聴く利用者さんも素敵な生演奏に手を叩いたり、声を出したりして大喜びでした。



暖でのコンサート



素敵な演奏を身体全体で感じたくて
臨場感あふれる最前列へ



初めて聴く方も楽しんでいました



コンサートのお礼に利用者さんが
作った創作品をお渡しします

まとめ

暖から地域へ出かけていくことで思いがけない出会いを体験できました。また利用者さんの縁がつながり、暖でのコンサート開催をお願いすることができました。これからも積極的に地域参加をして、ご縁を大切にしていきたいと思います。

作業活動について

～第二ひまわりの作業の紹介をします～

第二ひまわりでは、月～木曜日の午後の時間に作業（生産的活動）を行っています。作業には3つの部門があり、その中に2つずつ作業科があります。利用者さんは計6つの作業科に分かれ、自分の力を活かしながら作業に取り組んでいます。

職員は、利用者さんが自分の力を発揮できるように様々な作業を用意しています。

今回は第二ひまわりで取り組んでいる作業を紹介します。

地域交流部（食品科・地域貢献科）

地域交流部には「食品科」と「地域貢献科」があります。この部では地域交流を意識した作業内容を展開しています。

食品科は、畑作り・農作物の育成と収穫・納品（写真①）・販売などの作業を行います。また、令和6年度には地域の方とさつまいもの収穫祭（写真②）を行いました。

地域貢献科は、交通安全立哨・施設周辺のごみ拾い・掃き掃除（写真③）、また地域の農家さんから依頼をいただき、出荷前のねぎの皮むき作業に取り組んでいます。

①収穫した野菜の納品



②地域の方とのさつまいも収穫祭



③施設周辺の清掃



製品創作部（紙工科・縫製科）

製品創作部には「紙工科」と「縫製科」があります。この部では利用者さんの集中力や手先の器用さを活かして製品を創作しています。

紙工科は、紙すきを行いオリジナルの和紙を作ります。そして、その紙を活かして製品を作り販売します。オリジナル和紙は、紙を細かくちぎる（写真①）⇒紙をミキサーにかける⇒型にすりつぶした紙を入れる⇒乾燥させるという4つの工程を経て完成します。

縫製科は、刺繍作業（写真②）や、さをり織り（機織り）作業（写真③）を行います。作業で作った生地を活かして製品を作り販売します。

①紙を細かくちぎる作業



②刺繍作業



③さをり織り作業



作業環境企画部（リサイクル科・軽作業科）

作業環境企画部には「リサイクル科」と「軽作業科」があります。

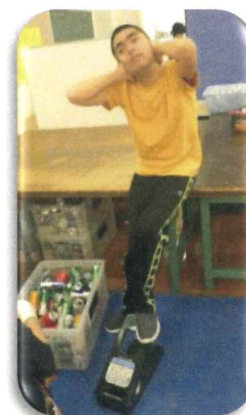
リサイクル科は、空き缶つぶし作業を行います。回収した空き缶を踏んでつぶし（写真①）、袋に集めて金属業者に売却します（毎月アルミ缶50キロ程度）。利用者さんの特性や取り組みやすい姿勢に合わせて踏む場所を設定し作業を行います。

軽作業科は、ペットボトルと切手の仕分け作業を行います。ペットボトル仕分け作業では、ペットボトルをラベル・キャップ・本体に仕分けします。利用者さんはラベルを剥がしたり、キャップを開けたりする時に器用に指先を使い作業しています。

キャップは回収業者にお渡しし、ペットボトル本体は地域のお店のペットボトル回収機械に入れてポイントに変換し（写真②）、年度末にお菓子やジュースを購入しています。

切手の仕分け作業では、切手をお湯につけて柔らかくし、一枚一枚封筒から剥がします。その後、乾燥させて（写真③）珍しい切手を選別し切手買取業者に送って買い取ってもらいます。

①缶を踏む



②ペットボトルを機械に入れる



③切手を封筒から剥がし乾燥させる



作業活動を通して

利用者さんは毎日、一生懸命に作業に取り組んでいます。その時間の中で利用者さんの自分らしさや、得意なことを活かして活躍されています。

また、毎日同じ時間に作業に参加することで、生活リズムが整います。生活リズムが安定すると、情緒面の安定にもつながります。

納品や収穫を通じ、地域の方々との交流も生まれます。

作業の時間は利用者さんにとって、自分の強みを発揮できる、社会に貢献できる、達成感を得ることができる大切な時間です。今後も、作業の時間が利用者さんにとって充実した時間になるように、職員は作業内容や活動を考え、実践していきます。



グループホーム喜多ハウス

～地域連携推進会議報告～



8月14日（木）喜多ハウスにて、入居者の方々、世話人、担当職員、入居者のご家族、地域の関係者、福祉や経営に知見のある方々、市の障がい福祉担当職員ら総勢15名が一堂に会し、「地域と施設の連携」を目的とした、地域連携推進会議を行いました。（今年度からグループホーム運営において必須と定められた会議です。）

地域の皆様に喜多ハウスや入居者の方々のことを理解していただくため、参加者全員で顔を合わせて意見交換をしました。入居者の方々と地域との関係作りにつながる交流ができました。



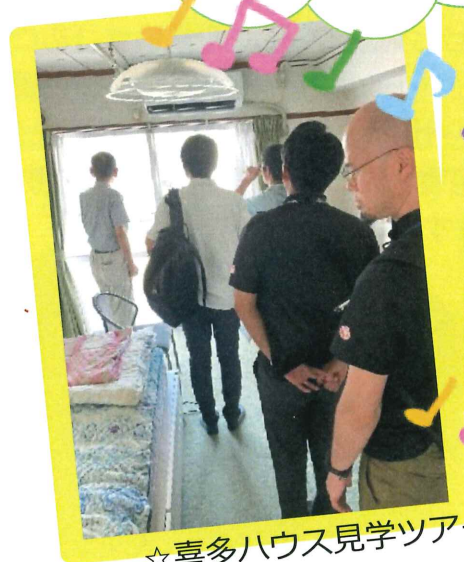
喜多ハウスの紹介概要、年間行事を動画やパソコンの資料で紹介しました。



参加者との意見交換
様々なご質問や
アドバイスをいただきました。温かい応援の
声に感謝感激です。



余興
入居者のご家族の
方が楽器演奏で
盛り上げて
くださいました♪



☆喜多ハウス見学ツアー☆



作品ページ



けやきワークス



初夏

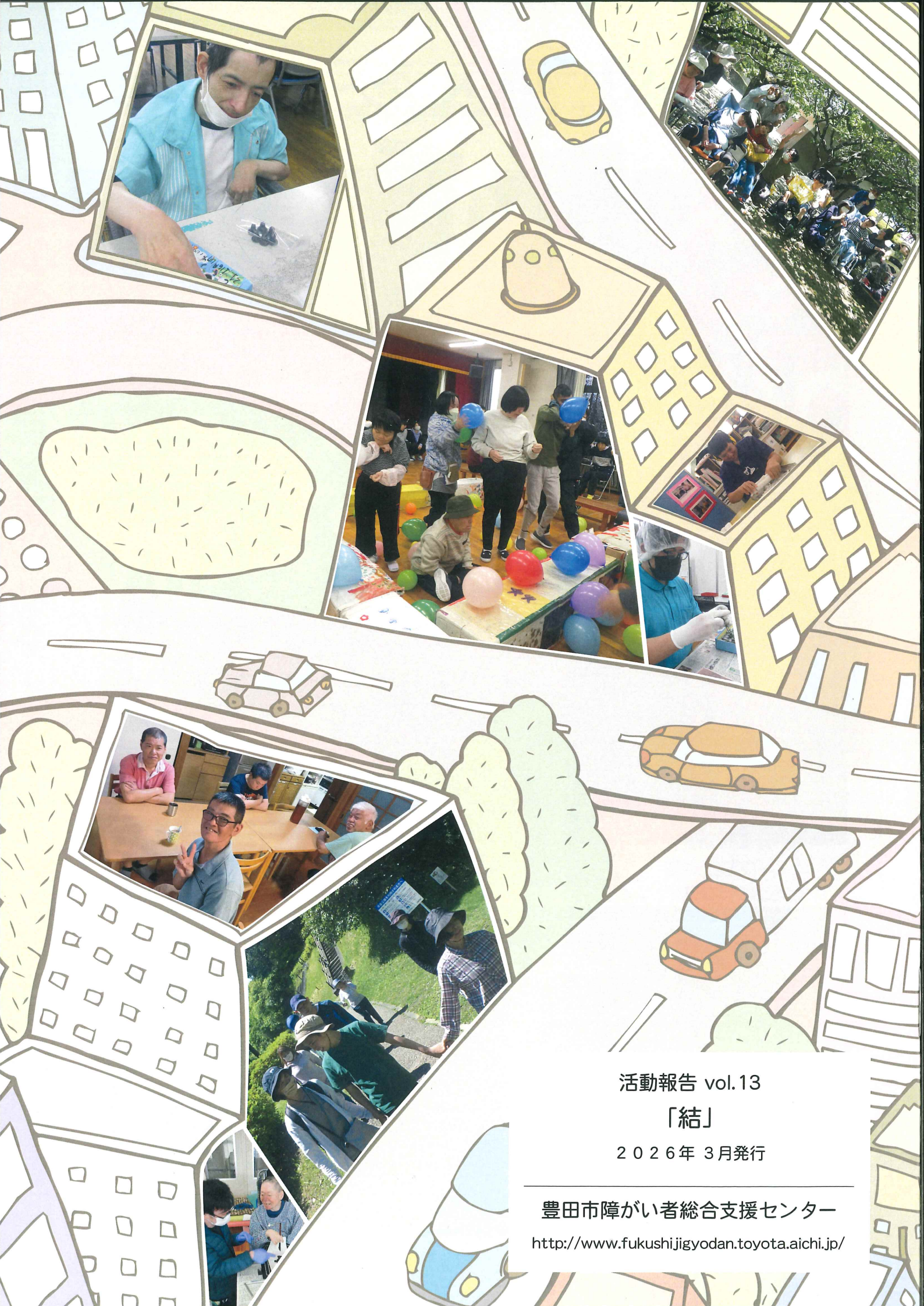
ラッコと海の仲間



第二ひまわり
縫製科



暖
ポテサラ・ボウル



活動報告 vol.13

「結」

2026年 3月発行

豊田市障がい者総合支援センター

<http://www.fukushijigyodan.toyota.aichi.jp/>